

地域学校協働研修会（会津地区）

福島県教育委員会（会津教育事務所）

〈日 時〉 令和元年9月30日（月） 9：30～15：45
〈会 場〉 会津若松市立大戸小学校
〈参加者〉 80名



実践発表

「地域学校協働活動～大戸地区の立ち上げから現在に至るまで」

講師 大戸公民館 館長 杉原 卓也 氏

大戸地区学校支援活動コーディネーター 白岩 勉 氏

○「学校と地域、家庭との連携・協働」の中で、公民館が中心となり、学校や地域の団体・人材と連携し、地域住民による学びの支援や子どもたちの成長の見守りを通して、地域の宝である子どもたちを育むことを理念としている。

【受講者の声】

- 地域や学校の連携が必要な時代になってきたなど実感しました。学校だけでなく、たくさんの人と関わり合いながら子どもを育てていかなければならないと痛感しました。
- 理念を持って立ち上げ、特に行政に携わっている方々が「子どもたちの活動の場」を整えてくださっていることを知ることができ、参考になりました。地域一丸となっていることが素晴らしいと思いました。



実践紹介・見学

地域学校協働活動「大戸小学校の取組」

発表者 大戸小学校 校長 二瓶 悦子 氏

○学校支援におけるねらい

- ・ボランティアの方との交流、
- ・地域と一緒に活動、安全管理の徹底

○双方向の活動にするための視点

- ・お返しを地域に届ける活動（花いっぱいプランター）
- ・地域の伝統文化の継承

- ① 地域の方に「してもらおう」だけでなく、子どもたちが地域に出かけて行き、地域に貢献する双方向の関係にしていこう。
- ② 来年度から導入される学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働本部事業を車の車輪として、連携・協働を図りながら地域と共にある学校づくりを目指す。



演習

「布とボンドで小物作り」

講師 クラフトハートトーカイ会津若松店 副店長 佐山 幸 氏

放課後子ども教室などで低学年から高学年の子どもまで簡単に安全に取り組める小物作りを提案。針と糸を使わずにボンドでティッシュケースを実際に作成しました。

【受講者の声】

- みんなで大きな作品を作るパッチワーク等の作成に応用できるとのことで、夏休みなどに取り組んでみようと思いました。針と糸を使わずに手芸をする発想に驚きました。



講演

「見方・かかわり方が変わればうまくいく」～明日からできる気になる子への接し方～

講師 会津教育事務所 指導主事 圓谷 隆雄

【支援の基本】

- ・子ども一人一人の個性に応じた活動の内容、支援の方法を工夫（声かけも一人一人違う）
- ・対人関係は、具体的な振る舞いを示す。話し方や態度をリハーサルする。

【演習 リフレーミング】

- ・今の見方とは違った見方をして言葉で伝えてみよう。

【まとめ】

- ・子どもの小さな一歩を見逃さずにひと声を。ほめることが大切。
- ・情報や刺激を大人がコントロールして集中できる環境作りを行うことが大切。

【受講者の声】

- ・気になる子をいろいろな角度から見ようと思いました。関わる子一人一人への対応を変えていかなければならないと思いました。
- ・リフレーミングの演習では、自分は今まで否定的な言葉ばかりを使っていたと反省しました。なかなか難しいですが、相手を変えることより自分が変わろうと思いました。
- ・メモックの活用が参考になったので、取り入れていきたいです。



グループ協議

それぞれの学校支援や放課後子ども教室の取り組みでの成果や課題、悩みなど

- ① 学校との連携 ②活動プログラムの企画 ③気になる子どもへの対応

【受講者の声】

- 様々な悩みを抱えて皆さんが日々活動していることが分かりました。話し合っただけで力がいただいた気がしました。
- いろいろな市町村の取り組みを聞くことができました。活動内容やプログラム等の違いがあり、参考になりました。情報交換ができ良かったです。



実践見学・紹介

放課後子ども教室事業「おおとっ子1455の取り組み」

講師 放課後子ども教室 コーディネーター 白岩 世都 氏
放課後子ども教室 活動指導員 白岩 源一 氏

- コーディネーターを中心に学校と日程調整。
- 夏休み期間は公民館で勉強会を実施。
- P T A総会での説明やチラシ配布で参加者を募集。
- 地域住民へ活動指導員や安全管理員を募集。
(公民館広報でも募集)



【受講者の声】

- 「フライングディスク」を指導できる指導者がいるので、子ども達の体験が豊かになっていると感じました。できそうなことは早速取り入れてみたいです。
- 始まりの式の「あいづっこ宣言」の唱和が良かったです。心が引き締まる感じがしました。

